府立泉陽高等学校
校長　武田　温代

令和３年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

志の高いリーダーを育成する学校
「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校
めざす学校像を示す４つのキーワード
１「心を鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
２「知を究める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
３「人と繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
４「将来を描く」…将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

２　中期的目標

１　グローバル社会を生き抜く高い学力の育成
(1) 生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの活用。
ア　「模試振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用した PDCA サイクルによる学力の向上。
イ　学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:44.0% Ｒ１:78.1% Ｒ２:80.3%→Ｒ５:80%超維持)
(2) 教員の授業力の向上
ア　授業力向上プロジェクトチーム（JKP）を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を推進することで読解力・思考力・表現力を育成する。
イ　生徒による授業評価の活用。教員の公開授業、研究授業を含めた校内内研修の推進。外部者への授業公開。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:81.9% Ｒ１:82.3% Ｒ２:83.3%→Ｒ５:80%超維持)
(3) 泉陽プレミアム（課外講習・補習）・泉陽プレミアム＋（３年進学講習）の組織的な実施。
ア　各教科・進路指導部・教務部が連携した、課外講習・補習の学年ごとの講習の更なる充実。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:85.6% Ｒ１:83.6% Ｒ２:78.3%→Ｒ５:80%超)
(4) オンライン学習の校内体制の構築
ア　ICT を活用した授業実践に向けた教員研修に実施や好事例を共有する。
＊教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(→Ｒ５:90%超)

２　高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす
(1) 生徒に自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実。
ア　社会で活躍している卒業生や第一線で活躍している人材による講話の充実。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:87.9% Ｒ１:88.6% Ｒ２:88.6%→Ｒ５:85%超維持)
(2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立。
ア　高大接続プロジェクトチーム（KSP）を活用し、教育産業と連携して生徒学力の分析会を実施する。統合 ICT を活用した情報の共有化。
イ　KSP による進学指導力向上のための模試・学力生活実態調査の結果分析会の充実。
＊生徒・保護者向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。
(H30:生徒 86.9%・保護者 89.4% Ｒ１:生徒 87.6%・保護者 87.1% Ｒ２:生徒 89.1%・保護者 84.0%→Ｒ５:85%超維持)
＊現役で国公立大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合（H30:32.4% Ｒ１:34.0% Ｒ２:41.3%→Ｒ５:40%超維持)
ウ　スクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカー等の外部人材の活用による教育相談体制の充実。迅速な生徒情報の共有化。
＊総欠席日数を前年度比５%ずつ減少させる。(H30:4764 日 Ｒ１:4249 日 Ｒ２:3325 日→Ｒ５:3300 日以下)
(3) 第４次大阪府子ども読書活動推進計画に先駆け読書活動を推進し幅広い教養を育成する。
ア　朝読や授業での学校推薦図書「泉陽の 500 冊」の活用による読書習慣の確立。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率を毎年３%ずつ引き上げる。(H30:52.4% Ｒ１:45.8% Ｒ２:54.2%→Ｒ５:60%超)

３　人としての豊かな見識と情操を育てる
(1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の育成。
ア　「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動の持続と学習時間の保障。
＊部活動参加率 90%超を維持しながら学力の向上をめざす。(学力生活実態調査における学力・学習平均レベル A３に)
イ　「自主的な学校行事」の促進。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:96.3% Ｒ１:94.2% Ｒ２:97.4%→Ｒ５:90%超維持)
ウ　堺市堺区や堺警察と連携した、清掃活動・ボランティア活動の推進。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:82.2% Ｒ１:81.8% Ｒ２:85.2%→Ｒ５:80%超維持)
(2) 「道徳教育推進教師」を中心とした道徳教育の充実による、豊かな人権感覚・望ましい生活態度・社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。
ア　教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:76.4% Ｒ１:79.9%　Ｒ２:79.9%→Ｒ５:80%超)
イ　「遅刻ゼロ」運動、「自分からあいさつ」の推進。
＊遅刻総数を前年度比５%ずつ減少させる。(H30:1658 回 Ｒ１:1797 回 Ｒ２:1346 回→Ｒ５:1500 回以下)
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:89.3% Ｒ１:90.7% Ｒ２:91.1%→Ｒ５:90%超維持)
ウ　多様性を育み、論理的にものを考えて自分の考えを的確に伝えることのできる力の育成。
＊生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率を維持する。(H30:64.6% Ｒ１:70.5% Ｒ２:77.0%→Ｒ５:75%超維持)

４　チーム泉陽として課題解決にあたる教員集団の確立
(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む雰囲気の醸成。
＊教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率を毎年３%ずつ引き上げる。(H30:60.9% Ｒ１:57.1% Ｒ２:64.4%→Ｒ５:65%超)
(2) 質の向上・平準化による業務の効率化。
＊教職員の時間外勤務時間を前年度より減少させ、月 80 時間以上の職員をなくす。(H30:35 時間 10 分 Ｒ１:31 時間 50 分 Ｒ２:29 時間 11 分→Ｒ５:30 時間未満)

府立泉陽高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和３年１２月実施分］	学校運営協議会からの意見
【学習活動等】 ・GIGA スクール構想の１人１台端末配付と活用の為「スマートスクール推進委員会」を設置した。校内予算で教員に１人１台端末を配付し、活用促進を促した。「教材や教え方に様々な工夫をしている」の肯定回答は昨年より増加し、生徒では 84.2%、教員でも 98.4%と高い結果となった。 ・「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会が多い」に対する肯定回答は生徒では昨年より 7.3%アップし 72.5%、教員でも 5.2%アップし 85.2%となった。「総合的な探究」の時間だけでなく、各教科の授業でも思考力や表現力の向上につながる授業が増加した結果である。しかし、生徒と教員との肯定的回答の差が 10%以上あり、さらに生徒が実感できるよう学校全体で重点的に取組む必要がある。 【進路指導等】 ・進路に関する意識の高さは恒常的にあり、「各種説明会や大学見学、進路 HR は進路選択に役に立つ」では、生徒 88.1%、保護者 92.0%、教職員 91.7%と昨年に引き続き高くなった。 ・一方で、「大学生等、卒業生の話を聞く機会が提供されている」「社会で活躍するリーダーの話を聞く機会が提供されている」の教員の肯定回答はそれぞれ 68.9%、80.3%と昨年度より上昇しているが、生徒の肯定回答は 60.6%と 57.6%、保護者の肯定回答は 58.2%と 56.1%と昨年より低くなっている。コロナ禍で全学年で実施していたものが、学年単位での実施になった影響が考えられる。 【生活指導等】 ・「あいさつやマナーを守る指導を行いモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定回答は生徒 95.8%、保護者 92.7%と高く、また「学校の先生との関係に満足している」の肯定回答は生徒 92.1%と昨年よりさらに上昇し、保護者 88.8%とともに高くなった。また、「生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の生徒の肯定回答は 84.3%（R2 82.3%、R1 80.7%）、「先生は、いじめについて困っていることことがあれば真剣に対応してくれる」の生徒の肯定回答は 89.8%（R2 88.6%、R1 86.1%）と年々上昇している。SC・SSW を交えた学習会等で教員の生徒対応力が向上したことで、生徒と教職員の関係がうまく機能していると考えられる。 【保健指導等】 ・「生徒の健康観察や健康指導を適切に行っている」の肯定回答は、生徒 88.0%・保護者 89.1%・教職員 95.0%と高い。健康診断や各種検診にとどまらず、学校三師と連携した事後指導や経過観察がしっかりできている。 ・一方で、「清掃が行き届くように指導している」の教職員の肯定回答が 80.0%に対して、「清掃活動が行き届いている」の生徒の肯定回答は年々上昇しているものの 54.6%と低い。日々、生徒たちは清掃活動に励んでいるが、施設の老朽化も数値が低くなる要因となっていると考えられる。 【自主活動等】 ・「部活動や生徒会活動などの自主的な力を伸ばしていく教育活動に力を入れている」の肯定回答は、生徒 96.4%・保護者 96.2%・教職員 96.6%と高い数値を維持している。本校のモットー「Senyo Style 咲かせ！ 青春！」が示すように、本校への志望動機の多数が「学校行事」「部活動」であり、本校の魅力のうちの最も評価の高い項目といえる。目的意識の高い生徒が本校を志望するよう、さらに力を入れていく必要がある。 ・「読書活動を推進し読書の習慣を身につけさせている」の教職員の肯定回答が 88.3%に対して、「読書する習慣がある」の生徒の肯定回答は 51.7%。朝読の時間に本を読んでいる生徒は多数いるが、習慣になるよう図書室の本の精選や委員会活動の活性化などさらなる読書活動の啓発が必要である。	第１回（5/21） ・卒業生の成績が在学中の評価通り、合格発表にも表れたと思います。コロナ禍による予定の変更や、文部科学省の度重なる大学入試制度のシステム変更に振り回された学年であったにもかかわらず立派な進路実績だと思います。 ・コロナ禍の臨時対応としてのみではなく、総合的に ICT や On-Line 教材の充実をはかり、災害に強い次世代の人材育成、教育体制を強化してほしいと思います。 ・今年度の３年生は修学旅行も残念ながら中止になりました。感染対策を強化しつつも、泉陽生（高校生）としての思い出が残る高校生活を過ごさせてあげたいです。 ・大学進学実績も向上し、良かったと思います。本年度の目標達成に向けて、油断されることなく取り組まれることに期待いたします。 第２回（10/22） 〇授業見学について ・中学校でも１人１台の端末が導入されて授業形態が変わってくると想像している。また、義務教育での英語の授業もAll Englishで行うことが目標となっている。高校の英語の授業もその延長にあるので、学んだことが活かせるようになってほしい。 ・本日参観した英語の授業はテンポ感があり、その組み立ても論理的で相当作りこまれていた。できるだけ授業内で覚えさせることが大事。数学の授業では、経験則から一般化させていく道筋をよく立てている。思考力を鍛えようとする意図がよく分かった。 ・昨年と違い、生徒がマスクをつけた生活に慣れた感じがする。ペアワークでの生徒どうしの応答がスムースであった。 ・どの先生も、授業で生徒にどんな力をつけたいのかを考え、ゴールを設定することができている。All Englishも当たり前になり、GIGAスクール構想についても進んでいる。現在、授業形態の変化については過渡期にあるところだが、テンポのある、生徒の脳を活性化させるよう、工夫して授業を行っている。 ・共通テストに変更され、多くの分量の文を速読する力が必要になっている。普段の授業の中で、必要な要素を抽出する力を身につけさせる必要があるのではないか。 〇学校経営計画の進捗状況について ・教員相互の授業見学を活発にするための方策として、１人１台端末を活用して授業を録画し、オンデマンドで見ることができるように考えてみてはどうか。 ・欠席や遅刻が増えている生徒についての支援について、泉陽高校ではSCやSSWと共同して十分取り組んでいるところだと思うが、生徒が自己肯定感をもてる場をどれだけ提供できるかが、改善につながる糸口になる。 ・次年度から高校での学習状況の評価が変わるところだが、「主体的に学習に取り組む態度」の評価については生徒の心身の発達段階や特性・個性に配慮した評価規準をつくることはとても難しいのではと感じた。一方で個別最適な学びについても考えなければならない。何とか知恵を出し合い、乗り切ってほしい。 第３回（2/18） ・学習指導に関わって、学校教育自己診断の肯定的な回答が教職員・生徒それぞれにおいて多く見られる。これは、教員の皆様が各授業において探究活動を重視し、１人１台端末の効果的な活用を進めてこられた、授業改善に対する効果の現れであると考える。とりわけ、スマートスクール推進委員会による校内教員研修が確立され、Society5.0 を見据えた「学び続ける教員」像を見事に示しておられる。 ・ICT の活用については、伸びしろは多分にあり、コロナ禍のような対面回避のシーンのみならず、幅広く活用できる展開が今後も必要と思われる。実際にどのように利用され、どの部分の取り組みが評価されたか、実際の利用例を見る機会もあればと思った。 ・読書の習慣の微減は、スマートフォン世代の共通の問題であり、過度なスマホ依存（動画視聴）により教養不足になることが心配される。大学入試の英語の長文問題などでは、背景知識（教養）の有り無しで、解答できるかどうかにも大きく影響される。従って、朝読や推薦図書の効果的な活用が引き続き求められる。 ・コロナ禍が今後どの様に収束していくのか、依然として行先が読まないが、教職員が One Team となってこの難局を乗り越えられることを切に願う。

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価

府立泉陽高等学校

１　グローバル社会を生き抜く高い学力の育成	（１）学力向上の進捗を確認できるツールの活用 （２）教員の授業力の向上 （３）泉陽プレミアム・プレミアム＋の組織的な実施 （４）オンライン学習の校内体制の構築	（１）ア 「考査振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上。 イ 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。 （２）ア JKPを活用して「主体的・対話的で深い学び」の在り方について研究し、授業で実践する。 イ各教科での研究授業だけでなく、教科を超えたテーマ（ICT、AL、座学、実技）による研究授業の実施。小・中学校への授業見学の実施。 （３）ア・教科・学年・学校全体としての組織的に講習・補習を実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、授業以外に必要な内容を講習として設定する。 （４）ア ICT を活用した授業実践に向けた教員研修をや好事例を共有することで教員の授業力を図る。	（１）アイ 生徒向け自己診断「考査や模試の結果をふまえ、次の学習に活かしている」をの80%維持。[80.3%] （２）ア 生徒向け自己診断「自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い」の肯定率を上げる。[65.2%] イ 生徒向け自己診断「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」の80%超維持。[83.3%] （３）ア 生徒向け自己診断「理解度に応じて補習や講習が行われている」の 80%超維持。[85.9%] （４）ア・教職員向け自己診断「教材や教え方に様々な工夫をしている」の肯定率90%超維持。[95.4%]	（１）アイ 全員の振り返りシートを担任と校長で確認しコメントを記入後返却したことで「考査や模試の結果をふまえ、次の学習に活かしている」が81.8%と上昇した。（○） （２）ア 「自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い」の肯定率は 72.5%と昨年度より７%上昇した。探究活動や１人１台端末の活用の効果が現れた。（◎） イ 研究授業や授業見学月間を実施したことで、「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」の肯定率が84.2%となり昨年より上昇した。（○） （３）泉陽プレミアム・泉陽プレミアム＋を組織的に実施したことで、「理解度に応じて補修や講習が行われている」の肯定率は85.3%と 80%超が維持できた。（○） （４）教員へも１人１台端末を配付し、スマートスクール推進委員会による研修を実施したことで、教職員の肯定率は98.4%と約3%上昇した。（◎）
２　高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす	（１）将来像を描く力の育成 （２）チーム泉陽による生徒支援体制の確立 （３）読書活動の推進	（１）ア 生徒のロールモデルとなる卒業生や社会の第一線で活躍している人材による講話を実施する。 （２）ア KSP による教育産業と連携して生徒の学力分析会を実施し、統合ICTを活用して情報を共有する。 イ KSPによる教職員研修を実施し、教員の進学指導力の向上を図る。 ウ SC・SSW等の外部人材の活用による教育相談体制の充実と生徒支援のための各種研修の実施。 エ 検診結果などを学年通信や HP に掲載することで、保護者の健康面に対する生徒支援意識を高める。 （３）ア 朝読や授業で学校推薦図書「泉陽の500冊」の活用や、図書室を充実させて読書習慣を確立する。	（１）ア 生徒向け自己診断「本校の進路指導は将来の進路や生き方に役立つ」「社会で活躍するリーダーの話を聞くことは有意義である」の 80%超維持。[85.2%、85.5%]) （２）アイ・現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合の40%維持。[41.3%] ・自己診断「各種説明会や大学の見学会は進路を選択する上で役に立つ」の 85%超の維持。[生徒88.3%、保護者90.7%] ウ 総欠席数の前年度比５%減少。 [3325 日] エ 保護者向け自己診断保健に対する情報提供の肯定率を上げる。[80.8%] （３）ア 生徒向け自己診断「読書する習慣がある」をの肯定率を上げる。[54.2%]	（１）「本校の進路指導は将来の進路や生き方に役立つ」の肯定率は84.5%で80%を維持した。（○）「話を聞くことは有意義である」の項目は「提供されている」に変更した。コロナ禍で実施対象生徒数を減らした為、肯定率は57.6%になった。（—） （２）アイ現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合は 36.1%にとどまったが、過去２番目の数値である。（△） ・「各種説明会や大学の見学会は進路を選択する上で役に立つ」の肯定率は、生徒 88.1%、保護者92.0%と昨年より少し上昇した。（○） ウ 欠席総数は 4623 日で昨年度より増加しているがコロナ禍の影響が大いに関係していると思われる。（△） エ 保健だよりや学年通信を活用したことで、保護者の保健情報に関する肯定率が 82.8%と上昇した。（◎） （３）「読書をする習慣がある」の肯定率は51.7%とわずかに減少した。（△）
３　人としての豊かな見識と情操を育てる	（１）協力協働の社会的精神の育成 （２）社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	（１）ア 進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動や学校行事に打ち込める環境づくりに努める。 イ 「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。 ウ 堺市堺区や堺警察と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動や清掃活動を推進する。 （２）ア 「泉陽あったかマップ」に従った人権HRや体験学習を実施する。 イ 「遅刻ゼロ」運動を全校統一して指導を行うことにより遅刻を減少させる。 「自分からあいさつ」を推奨するため、教職員が率先してあいさつを行う。 ウ 行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、多様性を育み、論理的物事を考える力、自分の考えを適切に伝えることのできる力の育成に努める。	（１）ア 生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができている」の 70%超維持。[72.9%] イ 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の90%超維持。[97.4%] ウ生徒向け自己診断「社会に役立有為な人材を育成しようとしている」の 80%超維持。[85.2%] （２）ア 生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」を80%以上にする。[79.9%] イ 遅刻総数前年度比５%減少 [1346 回] 生徒向け自己診断「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育てようとしている」の90%超維持。[91.1%] ウ 生徒向け自己診断「論理的にものを考える力、自分の考えを的確に伝える力が身についた」の75%超維持。[77.0%]	（１）ア 「学習と部活動の両立ができている」の肯定率は75.4%と上昇した。部活動指導の在り方に関する方針が浸透した成果が現れた。（◎） イ 「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の肯定率は 97.8%と非常に高い値となった。コロナ禍で、何ができるかを生徒たちに考えさせた成果が現れた。（◎） ウ 生徒の肯定率は87.8%と上昇した。堺市・堺警察と連携したボランティア活動の成果が現れた。（◎） （２）ア 人権HRで様々な角度からアプローチしたことで肯定率が80.6%に上昇した。（○） イ 遅刻総数は1818回。昨年４・５月の臨時休業等で単純比較できない。（—） ・「あいさつやマナーを守る指導」の肯定率は95%と高い値になった。（◎） ウ 「論理的にものを考える力」の肯定率は77.5%。調べ学習や発表の機会が多くの教科で実践された成果が定着しつつある。（○）
４　チーム泉陽として課題解決にあたる教員集団の確立	（１）全員で取り組む雰囲気の醸成 （２）業務の効率化	（１）ア グループワークによる自主的な研修を計画する。教科・分掌の枠を超えたミーティングを定期的に実施する。 （２）ア「働き方改革」に基づいて、学校閉庁日・全校一斉退庁日を設置する。「部活動の在り方に関する方針」に基づき部活動における長時間勤務を縮減する。	（１）ア 教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」を60%超維持。[64.6%] （２）ア 教職員の時間外勤務時間を前年度より減少させる。[29時間11分]	（１）「観点別学習状況の評価」の導入にあたり、研修や学習会を実施したことで、「教育活動について、日常的に話し合っている」の肯定率が 66.7%と上昇した。（◎） （２）教職員の時間外勤務時間の月平均は29時間02分。（○）